

【 目 次 】

- 1 適用する工種・確認項目
- 2 使用機器と仕様
- 3 実施方法
- 4 撮影時の安全対策

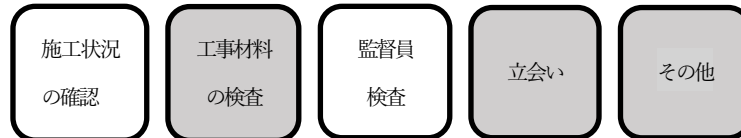
1 適用する工種・確認項目

1-1 適用の範囲（例）

本工事では、「建設現場の遠隔臨場に関する試行要領（案）」の適用の範囲のうち、以下に示す範囲について適用する。

【適用の範囲例】

凡例 ：適用 ☒ ：未適用 ☐



1-2 適用工種（例）

（1） 工事材料の検査

例（建築工事）鉄筋（種類、鉄筋径、長さ）、生コンクリート等

（機械工事）配管、衛生設備（便器・洗面器）、換気扇（型番、数量）等

（電気工事）配管、電線、ケーブル、分電盤等

（2） 立会い

例（建築工事）試験杭（詳細は、以下の通り）

（機械工事）給水管水圧試験（詳細は、以下の通り）

（電気工事）防火区画耐火処理確認（詳細は、以下の通り）

種別	細別	確認時期	確認項目	確認の頻度
建築	試験杭	施工時	位置、支持地盤、掘削状況確認	適宜
機械	給水管水圧試験等	配管敷設後	圧力計数値確認、外観	箇所、各1回
電気	防火区画耐火処理	施工時	施工状況	適宜

（3） その他

・打合せ及び施工の調整会議、事故などの報告等において、必要に応じて使用する。

2 使用機器と仕様（例）

2-1 使用機器

本工事では、以下の機器を使用する。

使用機器等	製品名・アプリ名
（撮影）	
撮影用タブレット	iPad
撮影用スマートフォン	iPhone
（配信）	
配信用アプリ	Teams

2-2 使用機器の仕様

使用機器の仕様は、以下の通りである。

項目		東京都交通局試行要領(案)	使用機器の仕様
（撮影）			
映像	画素数	1920×1080 以上※1	1280×720
	フレームレート	30fps 以上※1	30fps
音声	マイク	モノラル(1チャンネル)以上	モノラル(1チャンネル)
	スピーカー	モノラル(1チャンネル)以上	モノラル(1チャンネル)
（配信）			
映像・音声	転送レート(VBR)	平均 9Mbps 以上※2	10～12Mbps 程度

※1 通信環境及び映像による目的物の判別が可能であることを勘案して、受発注者協議の上、

画素数は 640×480 まで、フレームレートは 15fps まで落とすことができる。

※2 映像と音声の「配信」に関する仕様に対して、適切な転送レート（平均 1Mbps 以上）とできる。

3 実施方法（例）

3-1 「工事材料の検査」及び「立会い」の実施方法

（1）事前準備

- ・遠隔臨場の実施に先立ち、実施時間、実施箇所（場所）や必要とする資料等について、週間工程表等を活用して事前調整を行う。
- ・実施に当たり、事前に監督員との双方向通信の状況について確認を行う。

（2）撮影の実施

- ・監督員から撮影箇所や撮影方法等について指示があった場合は、調整を行う。

（3）実施後

- ・遠隔臨場を実施した場合は、作業日報等に実施内容を記録する。

（例）排水管満水試験の監督員による臨場を遠隔臨場にて実施した。

3-2 「その他」の実施方法

（1）事前準備

- ・遠隔臨場の実施に先立ち、実施時間、実施箇所（場所）や必要とする資料等について、週間工程表等を活用して事前調整を行う。
- ・実施に当たり、事前に監督員との双方向通信の状況について確認を行う。

※なお、事故報告等緊急の場合は、事前調整を省略する。

（2）撮影の実施

- ・監督員から撮影箇所や撮影方法等について指示があった場合は、調整を行う。

（3）実施後

- ・遠隔臨場を実施した場合は、作業日報等に実施内容を記録する。

（例）監督員との工事調整の打合せを遠隔臨場にて実施した。

4 撮影時の安全対策 →撮影時における受注者（特に撮影者）の安全を確保するため、撮影時の安全対策について記載

動画撮影でカメラ（ウェアラブルカメラ等）を使用する際は、意識が対象物に集中し、足元への注意が薄れ、カメラの保持、操作のために両手が塞がることにより、転倒等の事故につながるおそれがある。そのため撮影しながら移動する場合は、進行方向の段差・障害物の有無を確認するなどの対策を記載する。